

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	小山田 秀次 内線 7330
小施策	17-1	小中学校教育の充実	評価 シート 作成者	吉田 尚 内線 7332

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>・学力検査において、小学校の国語、算数及び中学校の国語、数学、英語とも全国水準を上回っているが、中学校の数学、英語は一層の向上を図る必要がある。また、義務教育9年間の系統性のある指導の充実を図る必要がある。</p> <p>・いじめやスマートフォンの使用に係る問題が発生していることから、生命を尊重する心や他人を思いやる心など、道徳的価値の自覚を促し、豊かな人間性を育む必要がある。</p> <p>・体力運動能力検査において、小中学校ともに走力、瞬発力などに課題が見られることから、体力向上の取組の充実・改善を図る必要がある。また、学校給食については、老朽化した施設・設備の整備などを進める必要がある。</p> <p>・子どもを取り巻く環境が大きく変化してきていることから、児童生徒・家庭・地域社会・学校・行政が連携を図り、それぞれの役割と責任を明確にしながら、地域の子どもは地域で育てるとする市民協働の教育を推進する必要がある。</p>	<p>・児童生徒の学力の実態を的確に把握しながら、基礎的・基本的な学力の向上を図る。また、各中学校区の実状に応じて、これまでの連続した教育活動をより一層強化するものとした小中一貫教育や、自立して社会で生きていくための基礎を育むキャリア教育、情報化社会に対応した情報モラル教育を進める。</p> <p>・学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実のほか、いじめを「つぐない」「みのがさない」「のこさない」取組や不登校対策の充実を図る。また、小中学校児童生徒を対象に、盛岡の先人や風土・文化を盛り込んだ先人教育を進める。</p> <p>・学校保健事業や体育振興事業の充実に努めながら、児童生徒の健康の保持と体力・運動能力の向上を図る。また、学校給食については、都南学校給食センターをはじめとする老朽化した各調理場の適正な規模、配置などを検討し、計画的に改築等を進める。</p> <p>・地域の教育課題を明確にしながら、学校と家庭、地域が一層連携を深め、地域に根ざした教育振興運動を展開する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
小中学生	学力の向上が図られる。心身ともに健全育成が図られる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
指標① 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生・国語】	ポイント	↗			
当初値 (H25)	110.6	R1目標値	113.0	R6目標値	113.0
<p>全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。NRT検査の平均正答率では、「書くこと」の全国比が121であり、「話すこと・聞くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質」の全国比を上回っている。</p>			<p>盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。</p>		
<p>NRT検査「読むこと」の小問内容「指示語の内容」「話の中心をまとめること」において、誤答率が5割以上である。</p>			<p>言葉と言葉との関係を言葉の意味や働き等に注目させを働かせながら文章を読む学習活動の不足が考えられる。</p>		
指標② 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生・算数】	ポイント	↗			
当初値 (H25)	108.4	R1目標値	110.0	R6目標値	110.0
<p>全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。NRT検査の平均正答率では、「数量関係」の全国比が109であり、「数と計算」「量と測定」及び「図形」の全国比を上回っている。</p>			<p>盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。</p>		
<p>NRT検査の小問内容「円と外接する長方形」「言葉の式で表すこと」において、誤答率が5割を超えている。</p>			<p>授業における思考を促す学習活動の不足と、「問われていることを理解する力」「説明する力」の不足が考えられる。</p>		
指標③ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・国語】	ポイント	↗			
当初値 (H25)	103.8	R1目標値	107.0	R6目標値	107.0
<p>全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。NRT検査の平均正答率では、「書くこと」の全国比が112であり、「話すこと・聞くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質」の全国比を上回っている。</p>			<p>盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。</p>		
<p>NRT検査「読むこと」の小問内容「行動と理由の読み取り」「叙述に即した読み取り」において、誤答率が6割を超えている。また、「要点をまとめる」において、無答率が6割を超えている。</p>			<p>文章全体をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえた読みの不足が考えられる。</p>		

## 今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<p>★ 各種学力調査や各学校の取組の検証を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 校内研究会では、「考えを深める学び合い」の保障とともに、目的を意識した読みの徹底を目指した指導・助言を行う。</p> <p>★ 「児童生徒のつまずきの要因を多面的に分析し、指導に生かすこと」「『確かな学び、豊かな学び実現プラン』の共有と検証」を通して、各学校の組織的な取組を支援する。</p>	
<p>★ 各種学力調査や各学校の取組の検証を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 校内研究会では、「考えを深める学び合い」の保障とともに問題の確実な把握の徹底を目指した指導・助言を行う。</p> <p>★ 「児童生徒のつまずきの要因を多面的に分析し、指導に生かすこと」「『確かな学び、豊かな学び実現プラン』の共有と検証」を通して、各学校の組織的な取組を支援する。</p>	
<p>★ 各種学力調査や各学校の取組の検証を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 校内研究会では、「考えを深める学び合い」を保障するとともに叙述を基に考えさせることを目指した指導・助言を行う。</p> <p>★ 「児童生徒のつまずきの要因を多面的に分析し、指導に生かすこと」「『確かな学び、豊かな学び実現プラン』の共有と検証」を通して、各学校の組織的な取組を支援する。</p>	

実績値の推移				実績の評価			
指標		単位	目指す方向	成果点		成果の要因分析	
指標④ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【中学校2年生・数学】		ポイント	↗	成果点		成果の要因分析	
当初値 (H25)	102.2	R1目標値	105.0	R6目標値	105.0	全国学力・学習状況調査の結果においては、全国平均より高い水準であった。数研式全国標準学力検査(NRT)の結果においては、「図形」及び「資料の活用」の領域で全国平均を上回った。	
				問題点		問題の要因分析	
<p>NRT検査の大領域別集計結果において、「関数」領域の平均正答率が全国平均を1.1ポイント下回った。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>授業における思考を促す学習活動の不足と、「問われていることを理解する力」「説明する力」の不足が考えられる。</p>				問題点		問題の要因分析	
指標⑤ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【中学校2年生・英語】		ポイント	↗	成果点		成果の要因分析	
当初値 (H25)	103.2	R1目標値	105.0	R6目標値	105.0	全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。NRT検査において、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域で全国の平均正答率を上回っており、領域間のバランスもとれている。	
				問題点		問題の要因分析	
<p>NRT検査の「書くこと」の領域において、無答率が15%を超える小問が3問あった。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>授業における書く活動の不足と、「問われていることを理解する力」「説明する力」の不足が考えられる。</p>				問題点		問題の要因分析	
指標⑥ 不登校児童の出現率【小学校】		ポイント	↘	成果点		成果の要因分析	
当初値 (H25)	0.19	R1目標値	0.19	R6目標値	0.19	H30年度は増加に転じたが、関係機関と連携を図りながら対応を進め、ケースの割合が、H29年度より増加した。	
				問題点		問題の要因分析	
<p>H30年度は増加に転じたが、関係機関と連携を図りながら対応を進め、ケースの割合が、H29年度より増加した。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>欠席3日で校内「対応チーム」を発足し、組織的な対応をすることが浸透してきていることによる。学校外の関係機関についての周知が図られたことによると考えられる。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>中学年の不登校児童数が増加した。小学校6年生が最も多く、全体の三分の一を超えている。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>発達の段階から考え、家庭環境における自分が置かれている状況を認識したり、周囲の児童の成長に伴い、人間関係づくりに孤独感や疎外感を感じたり、学習面に困難を感じたりすることで、自己肯定感が高まらないことによるものと考えられる。</p>				問題点		問題の要因分析	
指標⑦ 不登校生徒の出現率【中学校】		ポイント	↘	成果点		成果の要因分析	
当初値 (H25)	1.99	R1目標値	1.99	R6目標値	1.99	H30年度は増加に転じたが、指導の結果登校する又はできるようになった生徒の割合が、H29年度より増加した。	
				問題点		問題の要因分析	
<p>H30年度は増加に転じたが、指導の結果登校する又はできるようになった生徒の割合が、H29年度より増加した。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>不登校生徒への対応として、不登校児童生徒個票を活用したり、SSWと連携したり、適応指導教室「ひろばモリーオ」や医療、福祉等の関係機関と連携したりする等、各校の実態に応じた対策を心がけていることによる。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>出現率が高いまま推移している。不登校生徒の数は、中学校3年生が最も多く、中学校全体の約44%を占めた。次いで、中学校2年生が全体の約37%を占めている。</p>				問題点		問題の要因分析	
<p>「家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不平等」といった「家庭に係る状況」が、不登校の要因の約45%を占めており、要因別分類の中で最も高くなっている。「学業の不振」や「友人関係をめぐる問題」などの要因もあり、不登校の要因や背景が、年々多様化しており、各校における対応が難しくなっていることによるものと考えられる。</p>				問題点		問題の要因分析	

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<p>★ 各種学力調査や各学校の取組の検証を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 校内研究会では、「考えを深める学び合い」の保障・徹底を目指した指導・助言を行う。</p> <p>★ 「児童生徒のつまずきの要因を多面的に分析し、指導に生かすこと」「『確かな学び、豊かな学び実現プラン』の共有と検証」を通して、各学校の組織的な取組を支援する。</p>	
<p>★ 各種学力調査や各学校の取組の検証を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 校内研究会では、「考えを深める学び合い」の保障とともに重要なことを書くことを徹底を目指した指導・助言を行う。</p> <p>★ 「児童生徒のつまずきの要因を多面的に分析し、指導に生かすこと」「『確かな学び、豊かな学び実現プラン』の共有と検証」を通して、各学校の組織的な取組を支援する。</p>	
<p>★ 「新規不登校児童の抑制」が最大の鍵である。不登校を未然に防ぐ学級経営や、学習指導の充実を図り、「居場所づくり」や「絆(きずな)づくり」を通して、全ての児童にとって「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を推進する。</p> <p>★ 「欠席3日で校内『対応チーム』を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。</p> <p>★ 不登校・別室登校が継続している児童の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、「具体的計画立案 → 対応 → 評価 → 改善」のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。</p>	
<p>★ 「新規不登校生徒の抑制」が最大の鍵である。不登校を未然に防ぐ学級経営や、学習指導の充実を図り、「居場所づくり」や「絆(きずな)づくり」を通して、全ての生徒にとって「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を推進する。</p> <p>★ 「欠席3日で校内『対応チーム』を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。</p> <p>★ 不登校・別室登校が継続している生徒の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、「具体的計画立案 → 対応 → 評価 → 改善」のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。</p> <p>★ スクールソーシャルワーカーや医療、福祉等の関係機関とのさらなる連携を図る。</p>	

実績値の推移				実績の評価		評価を踏まえた取組の方向性
指標⑧ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:男】				単位	目指す方向	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
当初値 (H25) 97.8 R1目標値 101.0 R6目標値 101.0				ポイント	↗	
				<p>過去の体力調査結果では、落ち込みが見られる学年ではあるが、学年が上がるにつれて改善が図られている。筋力が全国標準値を上回っている。</p>		<p>成果点</p> <p>⇒</p> <p>成果の要因分析</p> <p>体育の授業での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考える。</p>
<p>問題点</p> <p>⇒</p> <p>問題の要因分析</p> <p>盛岡市の全身持久力とスピードに改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。</p>				<p>正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。また、登下校時の保護者による送り迎えが増えていることも要因の一つと考える。</p>		
指標⑨ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:女】				単位	目指す方向	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
当初値 (H25) 100.5 R1目標値 101.0 R6目標値 101.0				ポイント	↗	
				<p>学年が上がるにつれて全国標準値を上回っている種目が増え、改善が図られている。柔軟性、敏捷性、全身持久力、筋パワー、巧緻性が全国標準値を上回っている。</p>		<p>成果点</p> <p>⇒</p> <p>成果の要因分析</p> <p>体育の授業での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考える。</p>
<p>問題点</p> <p>⇒</p> <p>問題の要因分析</p> <p>盛岡市の全身持久力とスピードに改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。</p>				<p>正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。また、登下校時の保護者による送り迎えが増えていることも要因の一つと考える。</p>		
指標⑩ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:男】				単位	目指す方向	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
当初値 (H25) 100.4 R1目標値 102.0 R6目標値 102.0				ポイント	↗	
				<p>前年度1学年時に比べて、大幅に体力の向上が図られている。筋力、筋持久力、柔軟性、筋パワー、巧緻性が全国標準値を上回っている。</p>		<p>成果点</p> <p>⇒</p> <p>成果の要因分析</p> <p>体育の授業での運動量確保や、部活動での運動量確保と休養のバランスがとれたことなどによって基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考える。</p>
<p>問題点</p> <p>⇒</p> <p>問題の要因分析</p> <p>盛岡市の全身持久力とスピードに改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。</p>				<p>盛岡市の全身持久力とスピードの値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。</p>		
指標⑪ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:女】				単位	目指す方向	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
当初値 (H25) 100.2 R1目標値 102.0 R6目標値 102.0				ポイント	↗	
				<p>前年度1学年時に比べて、大幅に体力の向上が図られている。筋力、筋持久力、柔軟性、全身持久力、筋パワー、巧緻性が全国標準値を上回っている。</p>		<p>成果点</p> <p>⇒</p> <p>成果の要因分析</p> <p>体育の授業での運動量確保や、部活動での運動量確保と休養のバランスがとれたことなどによって基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考える。</p>
<p>問題点</p> <p>⇒</p> <p>問題の要因分析</p> <p>盛岡市のスピードに改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。</p>				<p>盛岡市のスピードの値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。</p>		

評価を踏まえた取組の方向性

★ 徒歩の登下校を呼びかけをし、基礎体力の向上を図っていく。  
★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。  
★ 研究発表会への実践では、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し研究を推進していく。

★ 徒歩の登下校を呼びかけをし、基礎体力の向上を図っていく。  
★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。  
★ 研究発表会への実践では、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し研究を推進していく。

★ 小学校に引き続き、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し、体力の向上を図っていく。  
★ 体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。  
★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。

★ 小学校に引き続き、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し、体力の向上を図っていく。  
★ 体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。  
★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。